

機関・団体名	議題							意見	意見への対応
	(1)令和２年度病床機能報告の結果について	(2)地域医療構想に関する国の動きと県の対応について	(3)病院の機能分化・連携の方向性について	(4)病院プロフィールシートについて	(5)地域医療介護総合確保基金を活用した補助制度について	(6)外来医療の機能の明確化・連携等について	(7)在宅医療・介護連携の推進について		
八戸市医師会	無	有	無	無	無	有	無	議題(6)関係 1 資料6-1 ５外来医療提供体制確保に関する取組について 「各医療機関の自主的な取組を促進」とあるが具体的にどのような自主的な取り組みなのか？医療機関のうち診療所は医療関係者が少なく、内容によっては対応しかねると考えるが。 議題(2)関係 2 資料2 2040年の医療提供体制を見据えた改革 Ⅲ.実行性のある医師偏在対策（偏在是正の目標年：2036年）について 青森県の医師偏在については現在でも大きな問題として述べられているところであるが、国の目標年は１５年先と先が長すぎる。当県にとっては直ぐにでも是正が必要で有り、国の目標年ではなく、県独自の目標年を見据えては如何か？	1 地域で不足する外来医療機能の確保・充実、医療機器の効率的活用などが考えられますが、具体的な取組の内容については、国の枠組みが示され次第、情報共有していきたいと考えています。 2 医師確保に係る目標年及び目標医師数については、令和２年３月に策定した青森県医師確保計画において、２０２３年までの目標医師数を、２０１６年１２月３１日時点の２,５６３人から３３３人増の２,８９６人として設定しているところです。 なお、現行の医師確保計画は令和２年４月から令和６年３月の４年間となっており、今後、当該目標の達成状況を評価・検証の上、令和６年４月以降の計画策定において新たな目標を設定する予定としています。
八戸市立市民病院	無	有	無	無	無	無	無	議題(2)関係 新興感染症対策について、対策にかかる病床をこれまで通りの臨時的な確保にしているのか、常時の確保とするか、今後、国や県で検討していくことと思うが、そのために病床を確保する病院は、診療報酬上、コロナ対応であれば、臨時的な取り扱いにより、すぐさま届出内容の変更を行うことは不要であるが、実際には、従来の病院機能を維持するために人員配置や施設管理等を維持することが難しい。 このようなことから、病床機能報告している高度急性期病床数も維持できなくなり、ひいては圏域で不足している高度急性期病床数の充足も遠のくことが懸念される。 少なくとも、新興感染症対策に対応する医療機関について、対応のため確保した病床分は、通常の診療に使用できなくなり、経営に大きく影響を与えることとなるので、確保した病床分にかかる補助金等の仕組みを組み込んだ対策とすることを希望する。 なお、新興感染症対策に対応する医療機関でも、実際に感染患者を受け入れているかどうかで、機能の維持に要する負担に大きく差が生じることから、その辺を配慮した内容にすべきと考える。	感染拡大時の短期的な医療需要については、一般病床を機動的に使用して対応する方針（案）が国から示されていますが、引続き、第８次医療計画等に関する検討会など、国の動向を注視しつつ、人員配置や施設管理等、実際の現場での問題点について、必要に応じて調整会議などで議論していきたいと考えています。 なお、補助金の件については、所管課に情報提供します。
おいらせ病院	無	無		有	無	無	無	議題(4)関係 病院プロフィールシートＰ５おいらせ病院の中で、病床利用率と病床稼働率の数字が逆になっていた。訂正をお願いする。	県ＨＰに掲載しているプロフィールシートについては、修正致します。
おいらせ町	無	無	無	無	無	無	有	議題(7)関係 在宅医療・介護連携の推進の中に医療・介護関係者の情報共有の支援とある。現状は、電話や紙ベースでのやりとりが主流だが、今後、ＩＣＴを活用した情報共有も必要となる時代になるものと思う。 ただ、同一の市町村内だけではなく、近隣市町村の医療機関や介護事業所などの連携も必要不可欠であり、これらの連携を考えた時、広域での取り組みの可能性の調査・研究や実施に向けた意見交換や協議の場も必要ではないかと思う。	複数の市町村にまたがる在宅医療・介護連携については、地域県民局地域健康福祉部保健総室が主体となり、県内６圏域で市町村職員、地域包括支援センター職員、ケアマネージャー、医療関係職員等による調整会議等を実施して、連携体制構築のための協議を行っています。（令和２年度及び３年度においては、新型コロナウイルス感染症対応のため実施できていない圏域もありました。） 切れ目のない医療及び介護の提供には、新興感染症等が発生した場合においても、情報共有等が可能な体制の整備が必要であり、ＺＯＯＭなど、ＩＣＴの活用も含め、県としても必要な支援について引き続き検討していきたいと考えています。 なお、町におかれましても、当該課題について、近隣の市町村等関係者と積極的に御協議いただければと考えています。
階上町	無	有	無	無	無	無	無	議題(2)関係 当町は公立の医療機関がなく、町内に開設されている民間の診療所２院と、八戸市内の医療機関で、医療資源をまかなっている状況です。 今回、新興感染症対策の一つとして、ワクチン接種事業を実施しましたが、町内２診療所のみでは、短期間での１２歳以上の接種希望者への対応は困難を極め、八戸市医師会や、遠路、青森県総合健診センター等からの支援をいただきながら、何とか実施することができました。 この医療計画の中では、主に少子高齢化対策を基本的な考え方に据え、今後の人口構成や疾病状況、社会環境等を考慮しながら計画してきましたが、今般のコロナ対策において、感染症や自然災害発生時等は、国の方針に基づき迅速に短期間で臨機応変に対応を考え、具体化していかなければならず、その中において公立病院の役割は大きく、郡内の公立病院である、五戸総合病院や南部町医療センターにも依存しなければ対応できない状況でした。 今後、医療機関の減少や公立病院の規模縮小も考えられることから、継続してこのような対応ができるか危惧されるところです。感染症や自然災害への対応も含めた区分を設け、病院、病床機能分化、連携等で各病院や行政が想定外の地域医療に対応できるよう、多少ゆとりのある計画や緊急時の応援体制の計画策定が必要と考えます。	令和６年度からスタートする予定となっている次期青森県保健医療計画においては、今般のコロナ対策等も踏まえ、感染症対策及び災害医療対策などについて見直しすることとしており、その際には、各市町村の御意見も参考とさせていただくこととしております。